

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 楽器展示を活用した音楽活動の授業づくり

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 居城, 勝彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00001641">https://doi.org/10.15021/00001641</a>

## 楽器展示を活用した音楽活動の授業づくり

居城 勝彦

東京学芸大学附属世田谷小学校

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 異文化理解教育の視点からとらえる音楽科の学習内容     | 指導案「楽器物語をつくろう」                               |
| 2 教科書分析から考える民族学博物館展示活用の可能性     | 指導案「太鼓を探そう」<br>付：みんなばっく「ソウルスタイル」を活用した総合学習の実践 |
| 3 展示を活用した学習プラン<br>指導案「楽器の仲間探し」 | 指導案「留学生の出身国について調べよう」                         |

\*キーワード：日本の音楽，楽器，祈り，世界の音楽，祭り

### 1 異文化理解教育の視点からとらえる音楽科の学習内容

日本の学校における音楽教育は長い間、明治以降西洋から入ってきた音楽を中心に、その学習内容がくまれていた。それは歌唱や器楽といった表現領域だけでなく、鑑賞や創作の領域にも及んでいる。しかし、平成元年度告示の学習指導要領に「我が国及び諸外国の音楽文化に対する理解と関心を深め、幅広く豊かな音楽観を育成することを重視する」という趣旨が含まれたことによって、これまで多く取り上げられてきた西洋の音楽ばかりでなく、アジアの音楽などが教科書などにも紹介され、教材として取り上げられるようになった。また、平成10年度告示の学習指導要領から鑑賞領域での共通教材の指定がなくなったことや、表現領域における旋律楽器の選択に「我が国や諸外国に伝わる楽器の中から児童の実態に応じて」といった表現が盛り込まれたことにより、より幅広い学習内容の構成が可能となった。ただし、小学校では音楽の授業時数の削減、中学校では選択教科の時間の拡大による必修教科の時間削減により、学習内容の精選を余儀なくされているのが現状である。

このような状況の中で音楽科の学習内容を異文化理解教育の視点からとらえると、まず子どもたちの出発点は、自分たちが日頃慣れ親しんでいる音楽であることを欠かすことはできない。そして、学習の中で新たに触れる音楽との違いや共通点を鑑賞活動や表現活動を通して体感することによって、音楽における異文化理解が進んでいくと考えられる。

子どもの発達段階と合わせて考えるなら、小学校段階では体感することを重視したい。そうすることで、今までの自分にはない音楽表現に触れることそのものへの抵抗感を

なくすこと、さらに自分の音楽表現の幅が広がることの楽しさに浸ることが大切であろう。中学校段階では、小学校段階でねらう、それぞれの文化が持つ音楽表現を体感することに加え、独特の音楽表現を成立させている音楽的要素（リズム、音階、和声、音色、楽器の特徴など）や社会的な背景（歴史、気候、宗教など）について知ったり考えたりすることが可能だろう。このようにして自分たちの持つ音楽文化との比較をしていく中で、新たに出会う音楽文化への理解が深まるだけでなく、これまで自然に体感してきた自分たちの音楽文化を再認識することが可能となる。

このような学習内容を展開する上で留意しなければならないことは、音楽という教科の特性上、まずは歌ってみたり楽器を鳴らしてみたりして、その音楽を体感することのできるだけ取り入れることである。視聴覚教材による鑑賞や情報機器を活用した調べ学習も効果的ではある。しかしそれだけでは知ったことや調べ上げたことへの満足感のみとなり、子どもたちの内面に起こる更なる動機付けにはなりにくいだろう。その点を十分に配慮しながら、限られた時間の中で効果的に学習ができるような計画を立てなければならないことが、教育現場に課された課題であろう。

## 2 教科書分析から考える民族学博物館展示活用の可能性

ここでは、小学校・中学校の音楽の教科書に取り上げられている教材の中から「アメリカ」がキーワードとなる曲を集計し、その傾向と民族学博物館展示活用の可能性を考える。

なお、今回使用した教科書は平成16年度に使用されているもので、現在音楽の教科書を発行している3社（中学校は2社）のものである。

### 参考文献

音楽教育入門—基本理念の構築 河口道朗編著 音楽之友社 1995年

小学校音楽（教芸：教育芸術社 教出：教育出版 東書：東京書籍）

	歌 唱	器 楽	鑑 賞
1 年	(教芸)		「そりすべり」
	(教出)「もりのくまさん」		「アメリカンバトロール」 「おどるこねこ」
2 年	(教芸)「みんなで1・2・3」 「小犬のビンゴ」		
	(教出)「小さなはたけ」		「そりすべり」 「マンボナンバーファイブ」
	(東書)		「ジャマイカルンバ」 「子ぞうのこうじん」 「そりすべり」

	歌 唱	器 楽	鑑 賞
3 年	(教芸) 「子どもの世界」 「ドレミの歌」 「ゆかいなまきば」 「ゆかいな木さん」 「パフ」	「テキサスの空」 「ゆかいなまきば」 「ゆかいな木さん」 「パフ」	「ゆかいなまきば」
	(教出) 「ドレミの歌」 「小さな世界」 「せいじゃの行進」	「ミッキーマウスマーチ」 「せいじゃの行進」	せかいのともだち (表見返し) 世界の子どもの歌から 「ひよこのマーチ」(ブラジル) 「せいじゃの行進」
	(東書) 「ゆかいなまきば」 「おねがいがい」 「ガタゴトほろ馬車」 「エーデルワイス」 「ドレミの歌」	「ゆかいなまきば」 「おねがいがい」 「ガタゴトほろ馬車」 「ミッキーマウスマーチ」	「ラ パンパ」 「トランベツトふきの休日」 「ブラジル」 「サウンドオブミュージック」から
4 年	(教芸) 「茶色の小びん」	「茶色の小びん」 「ミッキーマウスマーチ」	
	(教出) 「エーデルワイス」 「おどれサンバ」 「パフ」	「エーデルワイス」 「おどれサンバ」 「パフ」	日本のお祭り 世界のお祭りから 「インティ・ライミ」(ペルー) ミュージカル 「サウンドオブミュージック」から 「美中の美」 リオのカーニバルの様子 「ブラジル」
	(東書) 「パフ」 「世界じゅうの子どもたちが」 「雨にぬれても」 「茶色の小びん」 「メモリー」	「パフ」 「ほろ馬車」 「ザ ロングステデー マーチ」 「茶色の小びん」 「チキチキバンバン」	ミュージカル「キャッツ」から 「ジェリクルソング」 「スキンプルシャンクス」 「メモリー」
5 年	(教芸) 「静かにねむれ」	「静かにねむれ」	
	(教出) 「こげよマイケル」 「茶色の小びん」 「こきょうの人々」 「ピーナッツベンダー」	「茶色の小びん」 「こきょうの人々」 「ピーナッツベンダー」	
	(東書) 「こきょうの人々」 「星の世界」 「アンデスの青い空」	「こきょうの人々」 「トップ オブ ザ ワールド」 「アンデスの青い空」	
6 年	(教芸) 「エーデルワイス」 「アンデスの踊り」	「エーデルワイス」 「アンデスの踊り」 「コンドルは飛んで行く」	「コンドルは飛んで行く」
	(教出) 「ロック マイ ソウル」 「カントリー・ロード」 「チムチムチェリー」 「スカボロー フェア」	「スカボロー フェア」	世界の音楽から イヌイットの人々のたいこや歌
	(東書) 「シング」 「オラリー」 「こげよマイケル」	「スカボロー フェア」 「オラリー」 「コンドルは飛んで行く」	世界の楽器から「ケーナ」 (ペルー) 「こげよマイケル」

・アメリカ曲やアメリカ民謡、アメリカ人作曲家による曲、南米の民謡などの表記があるものやそれに関する写真資料をあげた。(中学校も同様)

	歌 唱	鑑賞・音楽史
1 年	(教芸) 「ハローハロー」 「主人は冷たい土の中に」 「こげよマイケル」	「おいしい水」(ジョビン) 「モーニン」(ティモンズ)
	(教出) 「スーパーカリフラジリスティック エクスピアードーシャス」 「チム・チム・チェリー」 「こげよマイケル」	
2 年	(教芸)	「Soon-ah will be done」
	(教出) 「シェリト・リンド」 「カントリーロード」 「エーデルワイス」	世界の音楽から シーク、ケーナ (ラテンアメリカ) スティールドラム (中米) フォルクローレ (ボリビア・ペルーなど)
3 年	(教芸) 「Edelweiss」 「自由への讃歌」	「自由への讃歌」 「Take Five」 世界の民族音楽からフォルクローレ(ボリビア) 「We are the World」
	(教出) 「Top of the World」 「Moon River」	世界の音楽から ゴスペル ミュージカル 音楽史から シェーンベルク、ストラヴィンスキー、 ケージ、バーンスタイン
教 芸	「せいじゃの行進」 「星に願いを」 「Edelweiss」 「自由への讃歌」 「Yesterday once more」 「コンドルは飛んでいく」 いろいろな合奏形態から 「ジャズバンド」 「ラテン楽器を中心としたアンサンブル」	
教 出	Let's Play! (表見返し・写真) 「カントリー・ロード」 「ラ・クバンルシート」 ラテンパーカッションを使ったリズム 「タイタニックのテーマ」 「虹の彼方へ」 「マンボNo.5」 「リベルタンゴ」 「花祭り」 「ムーンリヴァー」 「スカボローフェア」 「シャレード」	

集計の結果から、以下のように考察する。

#### 【小学校】

- ・教科書教材として取り上げられている曲の多くは、いわゆる西洋音楽の様式のもの  
がほとんどである。よって邦人作曲家による曲であっても、この表に取り上げられ  
ている曲と楽曲の構成要素上は大きな差がない。
- ・低学年で取り上げられている鑑賞曲は、学習指導要領中の「情景を思い浮かべやす  
い曲」として取り上げられている。ルロイ・アンダーソンの曲は、当時アメリカの  
家庭に普及したラジオから流れることを意識して作曲されているものが多い。しか  
し、低学年児童にとっては、そこからアメリカに意識をつなげていく展開は難し  
い。
- ・中学年で取り上げられている鑑賞曲は、学習指導要領中の「劇の音楽」として取り

上げられているものが多い。ミュージカルの曲は、鑑賞と関連させて歌唱教材や器楽（主にリコーダー）教材としても取り上げられている。この点では「ミュージカル→ブロードウェイ→アメリカ」というつながりも考えられる。しかし、「サウンドオブミュージック」のように 舞台がアメリカでないものは、子どもにとってアメリカとはつながりにくいと考えられる。

- ・高学年で取り上げられている鑑賞曲は、学習指導要領中の「諸外国に伝わる音楽」として南米の音楽が取り上げられている。これらの曲は歌唱教材や器楽（合奏）教材とも関連させている。
- ・6年生の歌唱教材ではカタカナ表記の英語で歌うものもある。「英語→アメリカ」というつながりは考えられる。

小学校での音楽の授業時数は、1年：68 2年：70 3・4年：60 5・6年：50である。この限られた時間内で音楽を通してアメリカについて学ぶことは、子どもにとって十分な理解や経験にいたらないだろう。そこで、音楽で触れたアメリカについて、さらに学習（音楽的な内容も含める）を深めるためには、他教科との合科的な授業や総合的な学習の時間を利用した展開がふさわしいと考えられる。

### 【中学校】

- ・学習指導要領の鑑賞では「(前略)世界の諸民族における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を感じ取って(2・3年生では理解して)聴くこと。」「音楽をその背景となる文化・歴史などに関わらせて聴くこと」(1年)「音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどから、総合的に理解して聴くこと」(2・3年)となっている。以上を反映し、2・3年の鑑賞教材では南米の音楽やミュージカル、ゴスペルなど幅広く取り上げられている。
- ・歌唱教材、器楽教材、鑑賞教材の関連をはかると「JAZZ・ゴスペル→黒人音楽→黒人社会で生まれた文化とその発展」といった流れが考えられる。
- ・小学校との連続発展を考えると、小学校で触れたディズニー映画やミュージカルのなどの曲を中学生の発達段階にあった 取り上げ方（器楽合奏や混声合唱など）を用いることで、表現からその曲の背景となる文化や社会的状況について学ぶことは可能であろう。

中学校での必修音楽の授業時数は、1年：45 2・3年：35である。テーマ性をもった授業の展開に魅力はあるが、現実的には難しい。そこで選択教科の音楽や総合的な学習の時間を利用して、学習を展開することで、音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどから、総合的に理解していくことが可能になると考え

られる。

以上のことから、民族学博物館の展示活用の可能性を考える。

展示内容で教科書教材として取り上げられている内容に関連させることができるものとしては、次のようなものがあげられる。

- ・カーニバルの衣装、楽器
  - ブラジルのカーニバルの様子、  
「ブラジル」(小4)  
ラテン楽器を使ったアンサンブル  
(中学校器楽)
- ・南米の衣装
  - 「コンドルは飛んでいく」  
(小6, 中学校器楽)  
世界の音楽からケーナ (小6)  
フォルクローレ (中2, 3)
- ・イヌイットの生活
  - 世界の音楽からイヌイットの人々のたいこや歌 (小6)

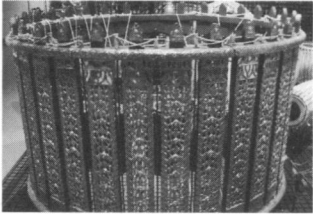
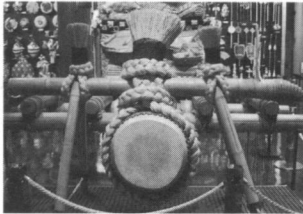


ただし、展示そのものから音楽が聞こえてくるものはイヌイットに関する展示のみであることを考えると、これらの展示の活用の可能性は音楽を成立させるための周辺領域であることがわかる。よって、小学校段階での活用には向かず、中学校以降の学習における発展的な学習の中で活用されることが望ましいと考えられる。

### 3 展示を活用した学習プラン

ここでは、小学校高学年から中学生を対象とした音楽を中心とした活動展開例（ワークシートも含む）を3点と小学校6年生を対象とした社会科を中心とした国際理解単元の実践報告をあげる。

なお、後者の実践については実施校が東京のため、みんぱくと展示内容を撮影した写真を資料として活用した展開となっている。

1. 単元名（活動名） 楽器の仲間探し	
2. 対 象：小学校高学年	3. 展示および資料との関連 音楽展示コーナー 館内展示全般 ビデオライブラリー 1046 ジャワの影絵芝居 1445 パロンダンス 1228 リトアニアの歌と踊り 1039 バグパイプ 1114 手回しオルガン 1623 カラハリ砂漠の親指ピアノ 1610 西ジャワの竹の楽器 1611 西ジャワの太鼓 1246 バリ島のガムラン 1156 韓国の国楽器 1110 雅楽 1273 日本の中の音楽 1495 宋廟祭の音楽と楽器 図書コーナー 展示ガイド みんぱく子どもガイド
4. 教科領域との関連性： 小学校5・6年生 「音楽」：日本の音楽，世界の音楽 「国語」：報告会を開こう	
5. 実施時期：いつでも可	6. 総時数：3～4
7. 単元（活動）目標： ・自分の知っている楽器を手がかりにして，世界各地の楽器を探す。 ・楽器の共通点を意識しながら楽器の仲間探しをする。 ・自分の探した楽器と，仲間の探した楽器を見合いながら，世界各地で使われている楽器の多様性を知る。	8. キーワード 音楽，楽器，祭り，祈り
9. 単元について（教材観・単元設定の理由・国際理解教育の視点など） 平成元年度告示の学習指導要領に「我が国及び諸外国の音楽文化に対する理解と関心を深め，幅広く豊かな音楽観を育成することを重視する。」という趣旨が盛り込まれ，現行の指導要領にも受け継がれている。 通常，世界の音楽に関する指導では視聴覚資料やある限定された地域の楽器を取り上げて学習することが多い。しかし，民博を利用することで世界全体を概観すること	
	



が可能であり、ビデオライブラリーなどの映像資料で音声情報も得ることが出来る。

本活動では、自分たちが日頃の音楽の授業や学校内外の活動で触れている楽器を出発点とし、世界各地で使われている楽器を見つける活動を通して、楽器の多様性とその中にある共通性に気づくことをねらっている。

また、音楽コーナー以外の楽器を探す活動のでは、その国や地域の生活や文化に触れながら世界を回ることもでき、さらなる活動の展開も可能である。

#### 10. 展開計画・展開記録

次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
1 (民博での学習)	<p>楽器展示コーナーにどんな楽器があるか探検してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に見学しながら自分の気になる楽器を1つ見つける。</li> </ul> <p>楽器の仲間探しをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気になった楽器をカードに記入する。</li> <li>・自分の気になった楽器の仲間だと思う楽器を楽器展示コーナーから見つけ、カードに記入していく。</li> <li>・楽器展示コーナー以外でも仲間だと思う楽器を探してみる。</li> <li>・自分の知っている楽器や触れたことのある楽器で似たようなものがないか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動前の説明をしすぎず、子どもの見たままや聞こえてきた音を手がかりにさせる。</li> <li>・みんぱく子どもガイド（6. 音楽・言語）を使い、仲間探しをするポイント（形、演奏方法、音の感じなど）を示す。</li> <li>・音楽展示コーナー以外にも楽器があることを知らせる。それぞれどんな国や地方の展示コーナーにあったかもカードに記入し、そのコーナーのみんぱく子どもガイドも集めさせる。</li> </ul>
2 (学校での学習)	<p>楽器の仲間探し報告会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを使って、お互いの仲間探しを見合う。</li> <li>・見合った感想やきついたことを出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間探しのポイントとしてどんな点があがっているかを提示する。</li> </ul>

#### 11. 評価計画：

- ・楽器展示コーナーから自分の気になる楽器を見つけることができたか。（カードの記述，言動）
- ・楽器の特徴に着目し，仲間の楽器を見つけることができたか。（カードの記述，言動）
- ・仲間のカードから共通点や相違点に気づく。（言動）
- ・似たような楽器が世界のいろいろな場所で使われていることに気づく。（言動）

## 楽器の仲間探しカード

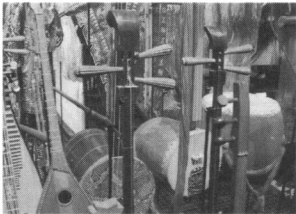
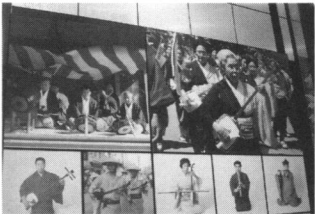
名前 \_\_\_\_\_

わたしの気になった楽器は

名前	絵
国、地域	

この楽器の仲間は

コーナー	国、地域	楽器の名前、絵	どこが似ているか

1. 単元名（活動名） 楽器物語をつくろう	
2. 対 象：小学校高学年～中学校	3. 展示および資料との関連 音楽展示コーナー 館内展示全般 ビデオライブラリー 1610 西ジャワの竹の楽器 1611 西ジャワの太鼓 1156 韓国の国楽器 1110 雅楽概説 図書コーナー 展示ガイド
4. 教科領域との関連性： 小学校5・6年生「音楽」： 日本の音楽，世界の音楽 中学校「音楽」：世界の音楽 社会科：大陸からの文化 総合学習	
5. 実施時期：いつでも可	6. 総時数：4～5時間：
7. 単元（活動）目標： ・世界各地の音楽や日本の音楽について興味関心を持つ。 ・自分なりの視点を持って館内で楽器を探す。 ・カードに記入した楽器をもとに楽器物語を作品化する。 ・生活の中での音楽の役割に気づく。	8. キーワード 音楽，楽器，祭り， 祈り，作業，収穫， 文化の伝播
9. 単元について（教材観・単元設定の理由・国際理解教育の視点など） 平成元年度告示の学習指導要領に「我が国及び諸外国の音楽文化に対する理解と関心を深め，幅広く豊かな音楽観を育成することを重視する。」という趣旨が盛り込まれ，現行の指導要領にも受け継がれている。 本活動では，民博の展示を使うことによって学校での学習の発展・深化をねらっている。世界各地に多種多様な音楽が存在し，そこで様々な楽器が使われていることは，視聴覚資料や図書資料などからも調べることができる。しかし，民博の展示に触れることによって楽器の質感やその地方の生活・文化を感じることも可能となる。このように一つの資料の周りにある拡様々な刺激や情報に触れることで，子どもひとり一人の中でイメージが拡がっていくだろう。 また，拡がっていくイメージと自分たちが普段触れている音楽とを比べることで，その共通点や相違点に気づき，生活における音楽の担う役割について気づくことができるだろう。 なお，楽器物語の完成型については，教科書に掲載されているものを参考にすることができるが，それにとらわれることなく，児童・生徒の実態に応じて工夫することが望ましい。	
	

10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
1 (学校での学習)	<p>世界の音楽を聴いてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を使いながら世界各地の音楽を鑑賞する。</li> <li>「収穫の歌」（ブルガリア）</li> <li>「麦打ち歌」（朝鮮半島）</li> <li>「ガムランの合奏」（インドネシア）</li> <li>「メヘテルハーネ」（トルコ） など</li> <li>・「春の海」など日本の音楽についても鑑賞をする。</li> <li>・教科書の記述を参考にして、暮らしの中での音楽の役割を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の音楽や日本の音楽に興味関心を持ち、楽しんで聞けるように、教科書以外の曲も準備しておく。民博のビデオライブラリーのリストも参考になる。</li> <li>・世界各地の音楽には、収穫を祝う、作業歌などの役割があることに気づかせる。</li> <li>・日本の楽器が古くは大陸から伝わってきたことに触れ、楽器の伝播について気づかせる。</li> </ul>
2 (民博での学習)	<p>自分の「楽器物語」をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器展示コーナーから自分の知っている（見たことがある、名前を知っている、音を聞いたことがある）楽器を1つ選び、カードに記入する。</li> <li>・選んだ楽器の仲間を楽器展示コーナーの中で探す。</li> <li>・楽器展示コーナー以外からも仲間の楽器を探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間探しをするときは、共通項をはっきりさせる。（形状、演奏法、音色、使用目的など）</li> <li>・楽器展示コーナー以外からも仲間の楽器を探すときは、その周りにある展示にも目を配り、どんな生活の中で奏でられる音楽なのかも考えさせるとなおよい。</li> <li>・必要に応じてビデオブースや学習コーナーに資料があることを伝える。</li> </ul>
3 (学校での学習)	<p>自分の「楽器物語」を完成させよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民博で見つけた楽器を世界地図の上に並べてみる。</li> <li>・調べてきたことをもとに、楽器の伝わり方や使い方などの予想を立て、自分の楽器物語を作品化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次での学習をふり返ることと民博で記入したカードをもとに世界地図上に楽器を並べることで、世界各地に同じような楽器があることや楽器の伝播に関することに気づかせる。</li> <li>・似たようなテーマの子ども同士でグループ編成をして行うことも可能である。</li> <li>・必要に応じて図書資料やインターネットを活用する。</li> </ul>

# 仲間探しカード

名前 \_\_\_\_\_

わたしの知っている楽器は

名前	絵	説明
国、地域		

この楽器の仲間は

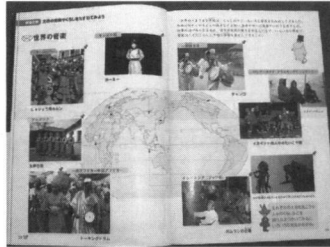
コーナー	国、地域	楽器の名前、絵	共通するのは
			楽器の形 演奏の仕方 音色 楽器の使い方 その他 ( )
			楽器の形 演奏の仕方 音色 楽器の使い方 その他 ( )
			楽器の形 演奏の仕方 音色 楽器の使い方 その他 ( )
			楽器の形 演奏の仕方 音色 楽器の使い方 その他 ( )

## 11. 評価計画：

- ・世界各地の音楽や日本の音楽について興味関心を持つ。(言動)
- ・自分なりの視点を持って館内で楽器を探す。(カード記述, 言動)
- ・カードに記入した楽器をもとに楽器物語を作品化する。(作品記述, 言動)
- ・生活の中での音楽の役割に気づく。(作品記述, 言動)

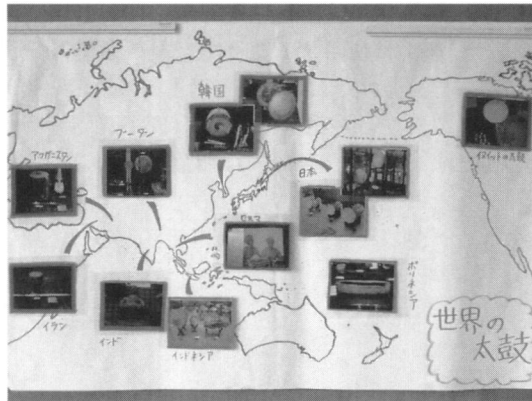
## 12. 授業づくりのための参考資料

- ・なるほど世界知図帳 昭文社 2004年
- ・図録 アフリカの楽器 浜松市楽器博物館編集発行 平成14年
- ・東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵楽器目録 1987年

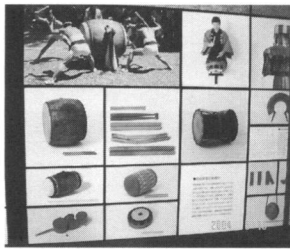

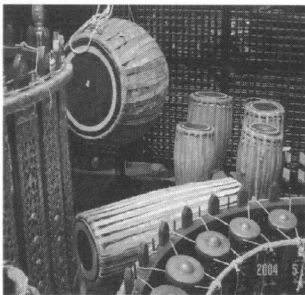


音楽のおくりもの 6年(教育出版)より

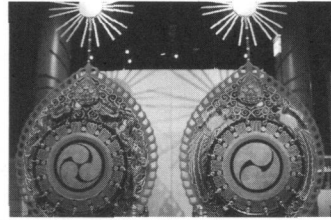
## 13. 学びの軌跡



撮影した展示資料を活用した作品「世界の太鼓」

1. 単元名（活動名） 太鼓を探そう		
2. 対 象：小学校高学年～中学校	3. 展示および資料との関連 音楽展示コーナー 館内展示全般 展示ガイド みんぱく子どもガイド	
4. 教科領域との関連性： 小学校5・6年生「音楽」： 日本の音楽，世界の音楽 中学校：世界の音楽 総合学習		
5. 実施時期：いつでも	6. 総時数：2～ (来館時のみの活動で展開可能)	
7. 単元（活動）目標： ・展示の中から世界各地で使われている太鼓を見つける。 ・太鼓は何のために使うのかを自分なりに考える。 ・自分の見つけた太鼓をもう一度見直し，博物館の人の話を参考にしながらその使われ方を考える。		8. キーワード 音楽，楽器，太鼓， 祭り，祈り，呪い， 生活
9. 単元について（教材観・単元設定の理由・国際理解教育の視点など） 平成元年度告示の学習指導要領に「我が国及び諸外国の音楽文化に対する理解と関心を深め，幅広く豊かな音楽観を育成することを重視する。」という趣旨が盛り込まれ，現行の指導要領にも受け継がれている。 本活動では，子どもたちに親しみのある楽器である太鼓を取り上げている。日頃は合奏や創作といった音楽的な活動の中や，体育的な活動で合図として使われている。 また，お祭りのお囃子など生活の中で触れる場面もある。しかし，太鼓の音がどのような目的で使われているのかを意識することは，まずない。そこでシャーマンが使う太鼓を例にあげ，演奏に使用する楽器ではない楽器に気づかせる。そこから，もう一度自分が館内で見つけた太鼓を，その周囲の展示を改めて見回すことや博物館の人に尋ねることで，ひとりひとりの持つ太鼓観，あるいは音楽観に揺さぶりをかけたい。そのことが，異文化理解への興味関心を呼び起こすものになるだろう。 また，この活動のもう一つの利点は博物館を直接“もの”を見るというだけでなく，“ひと”を紹介してものを見るという点である。これは新たな太鼓観や音楽観を		
  		

持つというだけでなく、博物館の利用の仕方や、自分の知りたいことを調べるためにどうしたらよいかという方法を知る上でも貴重な機会となる。



#### 10. 展開計画・展開記録

次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
1	<p>世界の太鼓を探してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽展示コーナーにある雅楽の大太鼓をスタートとして、同じ太鼓の仲間を探す。</li> <li>どこの展示コーナーのどんな展示の中にあっただのかをカードに記入する。</li> <li>時間がきたら、スタート地点に戻る。</li> </ul> <p>太鼓は何のために使うのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードに予想を書いてみよう。</li> <li>音楽を演奏するため、合図をするため…</li> </ul> <p>博物館の人、専門家に聞いてみよう</p> <p>「シャーマンの太鼓を見つけた人はいるかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの知っている太鼓によく似ているのに、その使われ方が違うことを知る。</li> <li>お祈りや呪い以外にも太鼓の使われ方がないか、もう一度自分の見つけた太鼓の展示を見てみる。</li> </ul> <p>世界各地で太鼓はどんな使われ方をしているだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お祭りのお囃子など、自分たちが良く触れている音楽に使われている太鼓にも、いろいろな意味があることを知る。</li> <li>わかったことをカードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を区切って館内の展示から太鼓そのものや、それに関する展示を探す。</li> <li>太鼓だけでなく、その周りをグルッと見回すことがポイントであることを伝える。</li> <li>子どもはこれまでの経験から演奏に使う楽器としての太鼓をイメージするだろうが、それ以外の使い方もあることに気づかせる。</li> <li>今まで触れていたものを改めて見直すことで発見があることに気づく。</li> </ul>

#### 11. 評価計画：

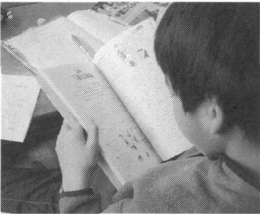


- ・展示の中から太鼓を見つけることができたか。（カード記述，言動）
- ・太鼓は何のために使うのかを自分なりに考えることができたか。（カード記述，言動）
- ・自分の見つけた太鼓をもう一度見直し，その使われ方を考えようとしたか。（カード記述，言動）

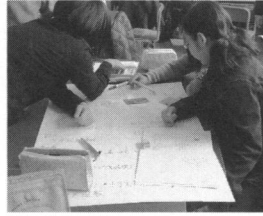
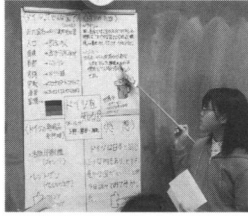


# 太鼓探し



名前 \_\_\_\_\_

名前	展示のある場所	まわりにあるもの	何に使うのか
大太鼓	楽器展示コーナー	雅楽の楽器	雅楽の演奏

1. 単元名 (活動名) 留学生の出身国について調べよう	
2. 対象: 東京学芸大学附属世田谷小学校 6年 授業者: 居城勝彦	3. 展示および資料との関連 ・ 東アジア展示 (朝鮮半島の文化) ※本実践では写真のみを使用 ・ みんなっく (ソウルスタイル)
4. 教科領域との関連性: 社会科 「地球上に生きる私たちの暮らし」 (国際理解単元) 総合学習 「留学生の方々と交流しよう」	
5. 実施時期: 2004年12月~2005年2月	6. 総時数: 10時間
7. 単元 (活動) 目標: ・ 留学生の方々の出身国について知り, 交流を深めよう。 ・ 交流に向けて調べたことや交流のしたことのでわかったこと整理して, ポスターセッションを開こう。	8. キーワード 国, 服装, 言葉, 遊び, 学校生活
9. 単元について (教材観・単元設定の理由・国際理解教育の視点など) ・ 本校では, 毎年12月に東京学芸大学の短期留学プログラムで来日している学生を学校に招き, 交流している。6年生の子どもたちは4年生の時から交流を始め, 今回が3回目の交流となっている。これまではどのようにして交流を深めるかを中心に話し合い当日を迎えていたが, 本年度は社会科の国際理解単元の学習との関連をはかった。例年, 6年生にはアジア出身の学生が派遣になる。今回対象学級には, 韓国・中国・台湾・ドイツの4名の学生が派遣となった。 ・ まず, 交流前に留学生の出身国について一人ひとりが調べ, 交流後に新聞の形でまとめる。その新聞を読みあいながら, 自分たちの持つ情報をもとにポスターセッションを行う。また, 図書室の資料も活用できるように教室に用意した。韓国グループには, みんなっく (ソウルスタイル) や東アジア展示 (朝鮮半島の文化) の写真を提供し, ポスター作成や発表に活用できるようにした。実物を使うことにより, 韓国の学校生活や暮らしの様子を具体的にわかりやすく発表することができると思った。 ・ 自分たちの生活や文化と比較することで, その国について知ると同時に, 自国の文化や生活習慣を再認識することが可能となるだろう。	
	
	



10. 展開計画・展開記録

次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
1次	<p>留学生の方に絵手紙の返事を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の交流した留学生の方に、絵手紙の返事として自己紹介の手紙を書こう。</li> <li>・交流の日までに留学生の方の出身国について調べておこう。</li> <li>・その国の言葉であいさつができるようにしておこう。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのグループ編成は子どもたちが活かされるように配慮する。</li> <li>・参考資料として、教科書や図書室の本、旅行ガイド、外務省のHPなどを紹介する。</li> </ul>
2次	<p>留学生の方と交流しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツで交流しよう。</li> <li>・学校の中を案内しよう。</li> <li>・日本の伝統的な遊び（福笑い、けん玉）を教えたい。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教えてもらうだけでなく伝えることも意識させる。</li> </ul>
3次	<p>事前に調べていたことや交流してわかったことをもとにして新聞をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな国かがわかるためにはどんな情報が必要かな。</li> <li>・日本と同じところはあったかな。</li> <li>・自分の一番伝えたいことが伝わるような紙面構成にしよう。</li> </ul> <p>同じ国について調べた新聞を読みあおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じことなのに数字が違うのはなぜか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの国を知らせるのに有効な情報を考えさせる。(国勢、文化、食べ物、言語など)</li> </ul>

## 4次

な。

- ・どんな資料を使って調べたの。
- ・実際に話を聞いてみると違ったね。
- ・いろいろな話ができると楽しいし、交流が深まった気がするよね。

それぞれの国について調べたことをまとめてポスターセッションをしよう。

(みんぱっくの活用)

- ・これはどうやって使うのだろう。
- ・実際に衣装を着てみよう。
- ・その国の言葉であいさつをしてみよう。
- ・どの情報をポスターに載せようか。



それぞれの国についてわからないことを聞いてみよう。(みんぱっくの活用)

- ・自分も韓国の衣装を着てみたいな。
- ・韓国の布団はどうして軽いのかな。
- ・このゲームは日本にも似たようなものがあるね。



- ・韓国グループにはみんぱっくを提示し、実際にものに触れる中で感じたことを発表の中に盛り込むと効果的な発表になることを伝える。

- ・自分たちが発信した情報がどう受け止められたかを確かめる活動でもある。また、実物を使って発表した韓国チームには、発表では取り上げることのできなかったものについても紹介できる時間とした。

### 11. 評価計画：

- ・留学生の方の交流に向けて事前に資料を集めて調べる。(ノート)
- ・仲間と相談して交流の持ち方を決めることができる。(行動観察)
- ・事前に調べたことや交流を通じた学んだことを新聞にまとめる。(作品)
- ・お互いの情報を重ね合わせながらポスターを作成し、発表する。(作品, 感想カード)
- ・日本の暮らしの様子と比べながら, 発表を聞いたり, ものに触れたりすることができる。(行動観察, 感想カード)

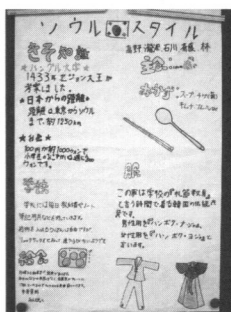
### 12. 苦勞した点・改善点

- ・みんぱっくの活用を考え韓国出身の学生を派遣してもらった。可能ならば留学生との交流の時にみんぱくがあることが望ましかったが, 利用状況に空きもなく, 利用期間2週間では子どもたちがじっくり中身に触れられる時間がとれなかったので, 第3次以降での活用を計画した。その結果, みんぱくのものに触れるときに予備知識があったことで, より理解が深まったことがあげられる。
- ・韓国についてはみんぱくが活用できたが, ほかの3カ国については子どもたちが集めた資料や図書室の資料のみとなったので, ものをを使った発表が行えなかった。発表後の情報交換でも, ものがある韓国チームへの関心が高かった。

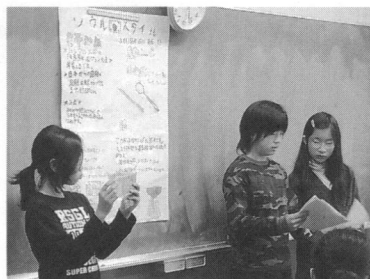
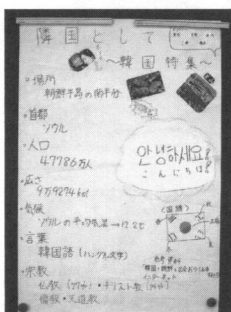
### 13. 授業づくりのための参考資料

- ・みんぱく (ソウルスタイル)
- ・シリーズ「世界各地のくらし」(1~30) 野田一郎 ポプラ社 1995年
- ・シリーズ「世界を知って日本を知ろう」(1~7) 梅澤実 学研 2002年
- ・「ジャッキー・チェンになりたいな」岡本央 草土文化 1998年
- ・シリーズ「地球たべもの大百科」(1~14) 谷川彰英 2001年
- ・シリーズ「われら地球大家族」チャイナ・フィーチャーズ リブリオ出版 1990年
- ・「韓国・朝鮮と出会おう」ヨコハマハギハッキョ実行委員会 山本すみ子 国土社 2001年

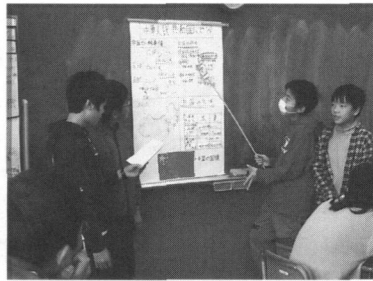
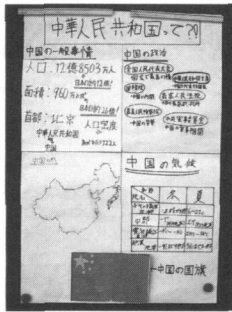
### 14. 学びの軌跡 子どもたちが作成したポスターとポスターセッションの様子



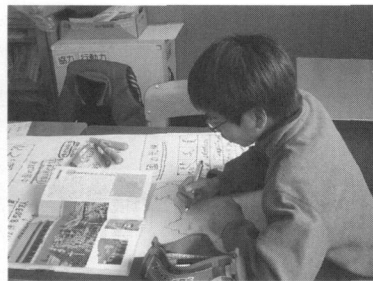
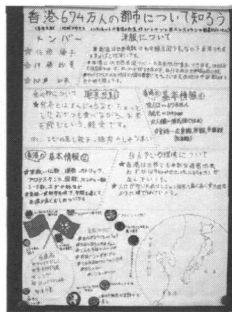
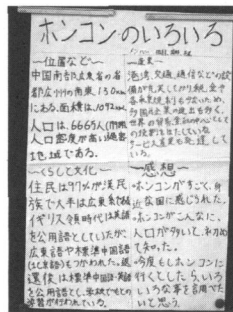
韓国グループのポスター



みんぱくに入っているお札について説明

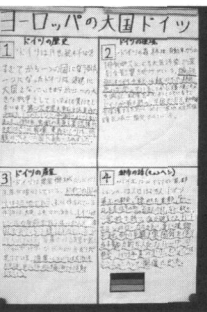
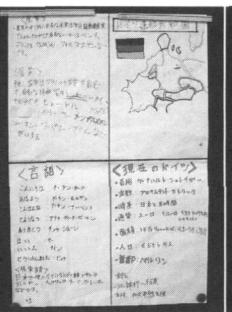
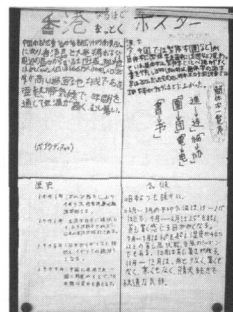


中国グループのポスターと発表の様子



香港グループのポスター

自分たちで集めた資料を使ってポスターを作成



ドイツグループ

学習感想：( )内は自分が担当した国や地域

- ・留学生が来たこの活動で韓国, ドイツ, 中国, 香港の国について学べた。どの国にも日本と似たところや違ったところがあって新鮮だった。(韓国)
- ・留学生がこの学校に来たことで, それぞれの国の歴史や文化を知ることができた。(韓国)
- ・私たちが住む「日本」以外のことがよくわかった。ポスターを作ったり発表したりするのは大変だったけれど, それだけ知識になっているといいなと思った。(韓国)
- ・これからは新聞やニュースでそれぞれの国のことを確認していきたい。(韓国)
- ・今回は少ししか知れなかったので, 他の国についても調べたりして, 文化や名産

物などを学んでいきたいと思いました。(韓国)

- ・今回の活動では今までなにげなく言っていた国のことを調べることができた。私が調べた中で一番驚いたことは、韓国の学校では目上の人への礼儀の授業があることだった。(韓国)
- ・今回の活動では「みんなっく」も届き、韓国チームはとても役に立った。最後にはクラス全員で「みんなっく」で遊んだり、体験したりして、とてもおもしろい授業だった。韓国の民族衣装も着てとても貴重な体験をしたと思う。(韓国)
- ・行ったこともない外国のことを調べて、外国のことがよくわかったし、身近に感じられた。(ドイツ)
- ・今回の活動をきっかけにして、病気や飢えに苦しんでいる人が多くいる国についてぜひ調べてみたい。(ドイツ)
- ・今回わかったことは基礎知識ぐらいだから、また機会があったらもっと調べたい。(ドイツ)
- ・それぞれの国のポスターを見て、世界の国々には色々な特徴があることがわかった。(香港)
- ・自分が今までイメージしていた国と較べるとかなり違う部分があった。例えば、香港は中国の料理とほとんど同じだと思っていたけれど、お粥など違ったものもあった。(香港)
- ・同じ国でもグループごとに違う情報が書いてあったから色々なことがわかった。(中国)
- ・自分の国以外の国が身近に感じるようになってよかった。(中国)

#### 15. 備考

みんなっく(ソウルスタイル)を活用したグループは、トピックシートの解説を資料として多く使っていた。本活動では、みんなっくを入り口として韓国を知るのではなく、留学生との交流が入り口となっている。そのため、みんなっくに触れる前に調べて知っている情報があった。その情報とみんなっくのトピックシートの情報とを読み比べることが、韓国について自ら知ろうとすることに役立っていた。

また、ポスターセッション後にクラス全員でみんなっくに触れる時間をとったが、韓国グループが色々と言明を加えながら仲間と交流することが出来た。教師から提示した情報のみで国際理解単元を展開するよりも、ものを通して学び合う姿が見られたところに、今回のみんなっく活用の有効性が読みとれる。